

2024. 5. 19 (日) ヤコブ 4 : 1 ~ 10

4:1 あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るものではありませんか。

4:2 あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。

4:3 求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。

4:4 節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。

4:5 それとも、聖書は意味もなく語っていると思いますか。「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。

4:6 神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」と。それで、こう言われています。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。」

4:7 ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃が去ります。

4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪人たち、手をきよめなさい。二心の者たち、心を清めなさい。

4:9 嘆きなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。

4:10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高く上げてくださいます。

#### <説教>

本日は聖霊降臨節（ペンテコステ）です。今からおよそ 2000 年前、主イエス・キリストの弟子たちが五旬節の日（それはちょうどイエス・キリストが復活なさってから 50 日後でした）にエルサレムのある場所に集まっていた時、一人ひとりの上に、イエスの約束の通りに、聖霊が天から降り、聖霊で満たしてくださいました。その時の激しい音を聞いて集まって来た大勢の人々にペテロが聖霊の力によって説教をし、そのことばを受け入れた人々がバプテスマを受け、3000 人ほどが仲間に加えられました。十字架で死なれ復活し、天に昇られて、父なる神と共に聖霊をお送りになった主イエス・キリストのいわば「地上の代理人」としての新約のキリスト教会がそのようにして誕生しました。迫害者パウロ（後のパウロ）も主イエスを信じ、聖霊に満たされて、イエスの福音を宣べ伝えるようになりました。教会は〈主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け〉(9:31)ました。聖霊はユダヤ人だけでなく異邦人にもお降りになり、いよいよ異邦人も神の民として教会に加えられていきました。聖霊はシリアのアンティオキアにも教会をお建てになり、パウロとバルナバをそこからお遣わしになり、ますます異邦人にもイエスの福音を宣べ伝えるように働かれました。そして教会は聖霊の導きによって、「ユダヤ人も異邦人も共に律法の行いにはよらず、ただ主イエスの恵みにより、主イエスを信じる信仰によって救われる」という真理を教会として公式に確認したのでした。そのことをアンティオキアの教会に書き送る

ことになり、その中に、異邦人が主イエスの恵みによって救われた者、神の民に相応しく生きるために守るべき必要事項がありました。それを提案したのがヤコブという人でした。

本日の聖書は、そのヤコブが書いた「ヤコブの手紙」の中で聖霊（御霊）について記されている所です。〈神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。〉(5)。とヤコブは言います。〈神が私たちのうちに住ませた御霊は、ねたむほどに（私たちを）慕い求めておられる〉（欄外注「別訳」）とも言われます。いずれにしても聖霊は、「神が私たちのうちに住ませたお方」です。聖霊は天の父なる神が、御子イエス・キリストと共に私たちのうちにお送りになったお方、即ち神であるお方です。だから「使徒の働き」でも見られるように、神としての力と権威をもって働かれたのです。弟子たちに神のことばを語らせ、人を恐れず大胆に主イエスを証しさせ、励まし、命じ、お遣わしになる聖霊は「父なる神」「御子なる神（イエス・キリスト）」と並んで永遠に「三位一体」の聖なる神なのです。そのお方が生まれながらに、そして今もなお罪深い私たちのうちに住んでくださると言うのです。〈自分の背きと罪の中に死んでいた者…生まれながら御怒りを受けるべき子ら（エペソ 2:1-3）である私たちが神に救いを求め、イエス・キリストを信じて救われるのは、ただひとえに私たちのうちに神が住ませてくださいった聖霊の恵み、力によるのです。〈聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません。〉（I コリント 12:3）。そしてその〈御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます〉（ローマ 8:16）。主イエスはご自分の弟子たちに、聖霊について「その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいる」（ヨハネ 14:16）と言われました。ですから聖霊は〈いつまでも〉つまり「永遠に」主の弟子である〈私たちのうちに住まわ〉れてくださるのです。

神のあわれみ、恵み、イエス・キリストのゆえに、罪人である（私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれてい）ます（ローマ 5:5）。だから、聖霊も父なる神、御子イエス・キリストと全く同じく私たちを愛しておられます。その愛は「ねたむほどに慕い求めておられる」（5 別訳）ほどなのです。御父と御子から出てご自分のものとして住んでくださっているがゆえに聖霊も〈ねたむほどに（私たちを）慕い求めておられる〉のです。だから聖霊が住んでくださっている私たちが（三位一体の）神でなく、その善きみこころでなく、自分の〈欲望〉を、〈世を愛〉し〈慕い求めて〉、自分の〈欲望〉に従い、〈悪い動機で求め〉、また〈世の友になりたいと思〉い〈自分を神の敵としている〉なら、聖霊は黙って見ていることや見て見ぬ振りをするにはおできになりません。むしろはっきりと罪を指摘して言われるのです（4:1-4）。なお、この自分の欲望に従い、悪い動機で求め、世を愛し、世の友になりたいと思う生活こそ、「使徒の働き」でヤコブが避けるように戒めた（またパウロも後に様々な場面で戒めた）ものと言えるでしょう。つまり、ただ主イエスの恵みによって、信仰によって救われるという教えを言い訳にして、偶像礼拝や淫らな行い、また人のいのちを軽んじるような考えや行いを改めない生活です。要するに「キリスト者になったと言っても特別なことをする必要はない。これまでどおり世間様と、周りの人と同じ生活でいいじゃないか。行いによって救われるのではないから。」という考えと行いです。

しかし、聖霊なる神は激しい〈ねたむほど〉の愛で私たちの罪を明らかに示し、戒め、私たちを神の前にへりくだらせ、悔い垂改めさせ、イエス・キリストによる罪の赦しを求

めさせ、またすでに罪赦されて神の子とされていることを思い起こさせ信じさせてくださいます。私たちのうちに住ませた聖霊によって〈神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる〉と言うのです(6)。「神が与えてくださる豊かな恵み」とはイエス・キリストご自身であり、イエス・キリストにある罪の赦しです。私たちのなすべき分としては即座の「へりくだり」(6)であり、「信仰」「悔い改め」「神への立ち返り」です。それをしないなら〈高ぶる者〉神に〈敵対〉する者(6)、「聖霊に逆らう者、聖霊を冒瀆する者」として自ら神のさばきを招くほかありません。

だから〈神が私たちのうちに住ませた聖霊〉が、まず天の父と御子なる〈神に従い、悪魔に対抗し〉ておられるます。私たちのうちには元々は〈神に従い、悪魔に対抗〉する思いも力も全くありません。またもし〈神に従い、悪魔に対抗〉することを始めたとしてもすぐに〈世を愛〉し、〈世の友となりたいと思〉ってしまいます。世間の目、周りの人の目が気になり、反対されたり迫害のようなのが加われば(いや、そんな予想・予感がしただけでも)もうたまらず、たちまち白旗を揚げてしまいます。だから〈神が私たちのうちに住ませた聖霊〉の助け導き慰めがどうしても必要です。聖霊は限りなく深く〈ねたむほど〉の愛をもって私たちを〈慕って〉くださっており、忍耐強く、疲れることなく〈神に従い、悪魔に対抗〉し、〈世を愛〉し〈世の友となりたいと思う〉私たちの罪と闘っておられます。私たちがその聖霊のお働きに信頼し、委ねて、それゆえ悔い改めてへりくだり悔い改めて〈神に従い、悪魔に対抗〉をするように、一步踏み出し、忍耐をもって続けるようによい動機で祈り求めるように、神のみことばと聖霊の助けを祈り求めるように、聖霊は私たちに〈ねたむほどに〉切に望み、切に求め、私たちに働きかけてくださっています。そうやって〈神が私たちのうちに住ませた〉聖霊は罪深く弱い私たちを必ず助け、強め、励まし、永遠の救いの完成へと導いてくださるのです。